

平成15年10月17日

各 位

上場会社名 株式会社 名 村 造 船 所  
コード番号 7014  
本社所在地 大阪市西区立売堀三丁目1番1号  
問 合 せ 先 責任者役職名 専務取締役経営業務本部統轄  
氏 名 武 田 節 彌  
T E L (06) 6543 - 3561

業績予想の修正について

平成16年3月期(平成15年4月1日~平成16年3月31日)の業績予想につきまして  
平成15年5月26日決算発表時の業績予想を下表のとおり修正いたします。

1. 連結業績予想の修正について

(1) 平成15年9月中間期(平成15年4月1日~平成15年9月30日)

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	32,000	1,200	600
今回修正予想 (B)	百万円	31,000	250	300
増減額 (B) - (A)	百万円	1,000	1,450	900
増 減 率	%	3.1	-	-
ご参考: 前中間期実績	百万円	32,376	645	561

(2) 平成16年3月期通期(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	70,000	2,000	1,100
今回修正予想 (B)	百万円	67,000	90	360
増減額 (B) - (A)	百万円	3,000	1,910	740
増 減 率	%	4.3	95.5	67.3
ご参考: 前期実績	百万円	66,053	1,890	889

2. 単体業績予想の修正について

(1) 平成15年9月中間期(平成15年4月1日~平成15年9月30日)

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	26,000	1,000	600
今回修正予想 (B)	百万円	25,300	350	210
増減額 (B) - (A)	百万円	700	1,350	810
増 減 率	%	2.7	-	-
ご参考: 前中間期実績	百万円	26,354	696	425

(2) 平成16年3月期通期(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	57,000	1,500	900
今回修正予想 (B)	百万円	55,000	560	300
増減額 (B) - (A)	百万円	2,000	2,060	1,200
増 減 率	%	3.5	-	-
ご参考: 前期実績	百万円	55,847	1,796	903

### 3. 上記修正の主な理由は以下のとおりであります。

中間期および通期連結業績予想の下方修正の主たる原因は、連結財務諸表提出会社（当社）の業績予想の修正であります。

売上高におきまして、企業グループの中核事業の船舶部門は、通期収益予想レートを期初に1米ドル当たり120円に設定し、外国為替が経営に与える影響が大きいため、社内規定として輸出・輸入為替運用ガイドラインを設け、リスクヘッジをタイムリーに実施した結果、上期はほぼ期初の収益予想レートに近い119円で為替リスクをヘッジすることができましたが、9月半ば過ぎから急激な円高となり、当分の傾向が続くと判断されるので、下期の収益予想レートを1米ドル当たり110円に見直しました。

また、準中核事業の鉄構部門におきまして、下期に受注・完工引渡予定の案件が、客先の都合により納期が次期へ繰延など単体で20億円の減収となり、加えて受注環境が依然として厳しい100%子会社の下期の売上計画を見直しました結果、連結売上高が30億円の減収となりました。

損益面におきましては、中国の造船設備拡大と自国建造の方針により当社の主要市場であった中国海運会社向け案件の減少は必至であり、新しいマーケットとして欧州、特に世界で有数の海運王国であるギリシャ船主を中心とした新造船案件に積極的に取り組み、多くの隻数を受注し、建造してまいりました。高仕様・高品質を要求する欧州船主向け新造船建造を継続することが、当社の設計・品質・管理レベルを大幅に向上させ、国際競争力の強化に繋がるものと確信しております。下期及び次期には、世界の超一流船主であるギリシャ船主オナシス社向け156千トン油送船各1隻を建造・竣工の予定であります。受注時から、溶接、塗装品質等、十分に事前準備を行なったものの、当初の予想を上回る船主監督からの高品質要求や厳格な検査もあり、予想をはるかに越えるコスト増、および急激な円高による収益予想レートの見直しにより、連結経常利益で19億円の減益予想となりました。

当期が期初予想値より大幅な減収・減益予想となりましたこと、誠に申し訳なく存じますが、これらの苦い経験を通じて得た教訓と対策は、当社の貴重な財産となっており、当社ならびに当社グループが、今後の厳しい国際競争に勝ち抜き、更なる発展の為には避けては通れない過程であると確信しておりますので、ご理解のほどをお願い申し上げます。

なお、本修正公表時における未ヘッジ外貨は72百万米ドルであります。

以上の結果により、平成16年3月期の中間期および通期の連結・単体業績予想修正を行うものです。

### 4. 配当予想

当社の中間配当につきましては、公表どおり1株2円を予定しております。

以 上